

安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名 : RV ウェットメント 主剤
会社名 : 田島ルーフィング株式会社
住所 : 東京都千代田区外神田 4-14-1
担当部門 : 防水テクノサービス
電話番号 : 03-6837-8880
FAX番号 : 03-6837-8890
作成日 : 2015年10月21日
改訂日 : 2022年05月21日

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

引火性液体 : 区分に該当しない

急性毒性 経口 : 区分に該当しない
急性毒性 経皮 : 分類できない
急性毒性 吸入 (蒸気) : 分類できない
急性毒性 吸入 (粉塵/ミスト) : 分類できない
皮膚腐食性及び刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 区分1
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない
誤えん有害性 : 分類できない
水生環境有害性 (急性) : 区分2
水生環境有害性 (長期間) : 区分2
オゾン層に対する有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】



【注意喚起語】 警告

【危険有害性情報】

H315: 皮膚刺激
 H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 H319: 強い眼刺激
 H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性

【注意書き】

安全対策:

P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートの吸入を避けること

P264: 取扱い後はよく手を洗うこと

P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと

P273: 環境への放出を避けること

P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

応急措置:

P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと

P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること

P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること

P305+P351+P338:

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること

P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること

P333+P313: 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること

P391: 漏出物を回収すること

保管:

P405: 施錠して保管すること

廃棄:

P501: 内容物/容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従い廃棄すること

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物

化学名: 変性エポキシ樹脂

成分	含有量(%)	CAS No.	化管法 (PRTR)	労働安全衛生法 通知対象物質
ビスフェノールF型液 状エポキシ樹脂	—	9003-36-5	該当せず	該当せず
シリカ 1~5%	1~5	7631-86-9	該当せず	該当
その他	—	登録有	該当せず	該当せず

「労安法、PRTR法、毒物及び劇物取締法に関する情報」

詳細は 15. 適用法令をご参照ください。

労働安全衛生法: 結晶質シリカ

表示危険/有害物

労働安全衛生法: 結晶質シリカ

通知危険/有害物

PRTR法: 該当せず

毒物及び劇物取締法: 該当せず

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合：

被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付いた場合：

付着物を拭き取り、水と石鹼でよく洗う。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。

目に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。

飲み込んだ場合：

多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合はさらに水を与えて吐かせる。

ただし、無理に吐かせようとしてはならない。

被災者に意識がない時は何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。

いずれの場合も、直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤：

初期火災には、粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。

大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

使ってはならない消火剤：

情報なし

特定の消火方法：

火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護：

消火作業の際は有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具等を着用し、消火作業は風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置：

漏出した場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。作業の際には保護具を着用して蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。

付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。

環境に対する注意事項：

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

少量の場合は、吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）に吸収させて取り除いた後、残りをウエス等でよく拭き取る。

多量の場合は、土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、漏出したものをすくいとり、空容器に回収する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い：

【技術的対策】

労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。

吸入、接触を避ける。

暴露の危険性が生じる場合には保護具を着用する。

よく換気された場所で使用する。

喫煙、裸火、熱または発火源を避ける。

取扱い時には、飲食または喫煙をしないこと。

取扱う場合、スパークしない道具を使用する。
 不適合物質との接触を避ける。
 取扱い後は、常に、石鹼水で洗浄する。
 正しい作業実施法を定め遵守する。
 物質で濡れた衣類が浸透し皮膚に接することは避ける。

【注意事項】

強酸、アミン化合物、メルカプタン、塩基と反応するので、十分注意する。
 混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。
 容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。
 使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。

保管：

消防法上の引火性液体であるので、消防法等の法規制に従うこと。
 容器を密閉して、涼しい所／換気の良い場所で保管する。
 施錠をして保管する。

8. 暴露防止措置

管理濃度：未設定

許容濃度：データなし

説備対策：蒸気の発生源を密閉する設備又は局所排気装置を設ける。

取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設けその位置を明瞭に表示する。
 「火気厳禁」「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。

保護具：必要に応じて適宜、次の保護具を着用する。送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器、有機ガス用防毒マスク。

保護眼鏡、不浸透性の保護手袋、保護長靴、保護服。

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

作業中は飲食、喫煙はしない。飲食、喫煙前には石鹼で手を洗う。

一度喘息の症状を示したヒトは、同じ症状を起こすので以後接触しないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	： グリス状
色	： 淡色白濁
臭い	： 特徴的な臭気
融点・凝固点	： データなし
沸点、初留点及び沸点範囲	： データなし
引火点	： データなし
	※液状確認(40℃)：液状でないため第4類の危険物に該当しない
自然発火点	： データなし
可燃性	： データなし
爆発下限界及び爆発上限界	： データなし
／可燃限界	
爆発範囲	： データなし
蒸気圧	： データなし
溶解度	： データなし
n-オクタノール／水分配係数	： データなし
分解温度	： データなし
pH	： データなし
動粘性率	： 5,000～25,000 mPa・s
比重(相対密度)	： 1.15 (25℃)
相対ガス密度	： データなし
粒子特性	： データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
安定性	: 室温、乾燥状態では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸、アミン化合物、メルカプタン、強塩基と反応し発熱する。
避けるべき条件	: 高温加熱、混触危険物質との接触、火源
混触危険物質	: 強酸、アミン化合物、メルカプタン、強塩基
危険有害分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない【3項の各成分毎のデータから算出される混合物の急性毒性推定値から】
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入、蒸気）	: 分類できない
急性毒性（吸入、粉塵・ミスト）	: 分類できない
皮膚腐食性及び刺激性	: 区分2【ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂の情報から】
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	: 区分2【ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂の情報から】
呼吸器感受性	: 分類できない
皮膚感受性	: 区分1【ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂の情報から】
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 分類できない
誤えん有害性	: 分類できない

12. 環境有害情報

水生環境有害性（急性）	: 区分2【ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂の情報から】
水生環境有害性（長期間）	: 区分2【ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂の情報から】
オゾン層への有害性	: 分類できない
生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし
他の有害情報	: 物理化学的性質からみて、水域、大気に移動しうる。
環境基準	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に委託処理する。

空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制:	
国連分類:	クラス9
国連品名:	環境有害物質（固体） ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S (Modified epoxy resin)
国連番号:	3077

容器等級： III
国内規制：
消防法： 該当
指針番号： 171
特別な安全対策：
火気厳禁、天地無用。容器にキズをつけぬよう、丁寧に取扱う。
消防法の危険物第1類、第6類、及び高压ガスとの混載は避ける。

15. 適用法令

消防法 : 指定可燃物 (可燃性固体類)
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 「表示・通知対象物質」 No.312/シリカ
P R T R 法 : 非該当
化審法 : 「優先評価化学物質」 非該当

16. その他の情報

①参考資料：

「新・エポキシ樹脂・硬化剤の正しい取扱いの手引き」 (エポキシ樹脂技術協会編)
「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]」
(平成24年7月 社団法人・日本塗料工業会)
「化学物質総合情報提供システム (CHRIP)」 (独立行政法人・製品評価技術基盤機構)
「作業環境評価基準別表」 (中央労働災害防止協会・安全衛生情報センター)
「許容濃度等の勧告」 (2021年度) (産業衛生学雑誌)
JIS Z 7252 (2019)
JIS Z 7253 (2019)

- ②本文書に示す含有量は範囲記載の場合を除いて「推定平均含有量」を表します。
③本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。また、すべての化学品には未知の有害性が考えられる為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位には安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。

以上